

総合教育会議の開催について

第1 第19回墨田区総合教育会議の開催について

1 開催日時及び場所

- (1) 日時 令和6年1月30日（火） 午前10時00分から午前11時30分まで
- (2) 場所 区議会第一委員会室（区役所17階）

2 出席者等

区分	出席者等
(1) 構成員 / 6名	区長、教育長、教育委員4名
(2) 区長部局 / 5名	副区長、企画経営室長、行政経営担当課長、政策担当課長、総務部長
(3) 教育委員会事務局 / 8名	教育委員会事務局次長、教育委員会事務局参事（庶務課長事務取扱）、学務課長、指導室長、すみだ教育研究所長、地域教育支援課長、ひきふね図書館長、教育委員会事務局副参事（学校改築計画担当）
(4) 協議事項の関連部 / 3名	子ども・子育て支援部長、子育て支援課長、子育て政策課長
(5) 傍聴人 / 26名	一般10名、区議会議員16名

3 協議事項

(1) 墨田区教育施策大綱に係る教育課題について

墨田区教育施策大綱に係る教育課題の1つである「自己肯定感について（～子どもたちの自己肯定感を高めるためには～）」について、内閣府や文部科学省、OECDが実施した調査結果、分析等を踏まえ、意見交換を行った。

4 会議での主な発言

(1) 自己肯定感について（～子どもたちの自己肯定感を高めるためには～）

区長	<ul style="list-style-type: none">・自己肯定感とは、確かな学力、豊かな人間性、健康体力の全ての基礎となるものであり、予測困難な時代を生きていくためには必要な力である。・自己肯定感が高ければ、精神的に安定し、人からの評価を必要以上に気にしたり、誰かと比べたりすることにとらわれないため、自分の目標を持ち、それに向かって努力して、困難を乗り越えることができる。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none">・自己肯定感を高める目的は、大きく3つある。①他者を尊重し、互いに認め合えるようになるため。

教育委員会	<p>②自分の探究、挑戦するエネルギーとするため。</p> <p>③満足度、幸福度、充実感、自己有用感が得られた豊かな人生を送れるようにするため。</p> <ul style="list-style-type: none">・自己肯定感を高めるためには、発達段階や育成環境に応じた育成が必要である。・発達段階に応じて、子どもが信用・信頼している大人から褒められたり、集団行動の中で、他者との比較により自己を認識し、他者から評価されたり、また、他者から評価されることに加えて、自分で納得することで自己肯定感が高まっていく。・他人の役に立った、褒められた、他人に喜んでもらったなどの達成感が、自己有用感を高め、それが自己肯定感を高めることにつながる。・自己肯定感は、人との出会いや関わりによって、育まれていく。学校行事の中で、できたことへの充実感や反省の気持ちなどを感じて、それが自己肯定感の醸成へとつながる。接する時間が長い教員の存在は、とても大きいと言える。・子どもは、保護者や教員が子どもに対し、どのように接するかという点にも敏感だが、友人たちからどう見られているかをより気にしており、友人関係の中で自己肯定感を醸成していく。・東京未来大学とすみだ教育研究所との共同研究では、自己有用感・他者受容感が育まれることで、自己肯定感が育まれていき、自己肯定感が育まれることで、自己効力感が育まれる。それが学習意欲の向上につながるという結果が出ている。・自己肯定感や自己有用感を育むためには、褒め方が大切である。特に自己肯定感を育てるためには、結果を褒めるのではなく、努力の過程を褒める必要がある。・自己肯定感が高ければ良いというものではない。低過ぎず、高過ぎず、適度であることが望ましい。・自己肯定感の育成には、自己有用感の育成が重要である。自己肯定感は、そんなにしっかりしているものでない。そのため、逆境やトラブル、強いストレスに直面した時に適応する精神力、心の回復力であるレジリエンスを高める必要がある。
-------	--